

大宮東地区

さお ち い な り じん じゃ

棹地稲荷神社

棹地稲荷神社は、JR富士宮駅の北側にある神社で、宝永3(1706)年創建とされています。

かつては、御殿町に祀られていましたが、昭和7(1932)年に大宮町大火※が起こったため、区画整理が行われ、昭和9(1934)年に現在地へうつされました。

明治維新の際に、土地測量に用いた棹を奉納したことが神社の名前の由来であるとされ、測量に用いた棹を祀る例はあまりないことから、珍しい神社といえます。

当初は五穀豊穡を祈る稲荷神社の神様である「宇迦御魂之神」が祀られていましたが、その後、疫病退散を祈る天王神社の「須佐之男命」、商売繁盛を祈る恵比寿神社の「事代主神」も祀られるようになりました。

現在、それぞれの神社の例祭が、2月・7月・11月に行われており、2月の初午祭では区民から五色の幟が奉納されます。

※ 富士山本宮浅間大社の東側から現在の大宮町、中央町、富士宮駅あたりまでの15町を巻き込んだ大火事。約1,100戸が全焼したとされる。

初午祭の時期は、市内にある他の稲荷神社でも、幟の立つ場所が多くあります。

広報ふじのみや1月号蔵屋敷稲荷の紹介▶



歩く博物館 H東コース<大宮東地区>
旧大宮町東地区をコース

市役所6階文化課、出張所または市公式ウェブサイトなどにあります。



ID 1769



棹地稲荷神社



御遷宮記念碑
(現在地にうつされた経緯が刻まれる)



初午祭に立ち並ぶ幟

歩く博物館ガイドブック

全24コースの地図と解説付きです。

料 500円

申 市役所6階文化課、埋蔵文化財センターの窓口で

他 郵送で購入したい場合は、電話またはメールでお問い合わせください。

問 文化課 ☎22-1187

✉ e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

有料
ガイドブック

